

港区長・本部会館にご来訪 展示室・図書資料室を見学
本部会館を地域児童の課外学習の場に

東京都港区六本木にある本部会館は、2024年12月に大規模改修工事を終え、本部活動を再開し、新たに設置した本部会館地下にある展示室・図書資料室は、一般向けに平日開放していたが、来館者の増加を目指し、特に、平日が難しい学生や親子連れ層向けとして、本年4月から毎週土曜日の開放をスタートした。5月11日、海員組合本部から田中伸一組合長代行、齋藤洋中央執行委員、高宮成昭総務部長ならびに渡辺専太郎政治参与、石渡ゆきこ港区議会議員同行の下、清家愛港区長を訪問し、本組合の紹介と、今まで行ってきた海事思想普及活動を説明した。

これに伴い、5月29日に清家愛港区長ならびに白石直也港区防災危機管理室防災課長が組合本部会館を訪問され、渡辺専太郎政治参与の同席の下、齋藤洋中央執行委員と高宮成昭総務部長が案内し、本部会館の説明を行った。

清家愛港区長が組合本部会館を訪問

はじめに、地下大会議室にて、組合本部の改修の経緯や概要について説明した紹介動画を視聴された。

続いて、本部会館の各フロアを見学され、建築の観点からの特色や評価されているポイントなどを紹介し、海事思想普及活動の一環として、活用している展示室や図書資料室などについて、詳細な説明を行った。

齋藤中央執行委員からは、「4月から土曜日も開室しており、連日さまざまな方にご利用いただいている。港区近隣の小学校や学童に通う児童向けに海や船に関する現役船員による講話や各種イベントも企画していくので、船の職業に関心を持ってもらう場としてぜひ活用いただきたい」と、課外学習などでの本部会館の利用について説明した。

図書資料室では、船長の制服に身を包み、操船シミュレーターやVRも実際に体験された。清家愛港区長は「建物の存在は知っており、以前から大変気になっていた。地下の大会議室は音楽会やさまざまなイベントが開催でき、人が集える素晴らしい場所。操船シミュレーターや、船上が疑似体験できるVR、多様な用途に利用できるワークスペースは子どもたちにとっては大変有意義である。今後さまざまな形で連携していけたらと思う」と感想を述べられた。

「海員だより」